

令和8年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓「夢・発見・実現」のもと、北摂地域に根付いた総合学科高校として、生徒の興味・関心に応じた各系列での多様な学びを通し、豊かに暮らすためのスキルを身に付けさせるとともに、学校全体での人権教育・生徒支援・生活指導はもとより、キャリア教育と教科指導等を密接に連携させた支援・指導を行い、自他敬愛の心で協働できる人材を育成し、生徒一人ひとりの「進路実現」を具現する。 1 多文化共生の風土を活かし、自分と異なる背景を持つ人との交流を通してソフトスキルを養い、柔軟で寛容な心を持つ多様な人材を育てる。 2 キャリア教育を推進し、コアカリキュラム「ドリカム」を中心とした総合学科の学びで、コミュニケーション能力や課題解決力を育む教育を実践する。 3 生徒それぞれが持つ力を伸長するとともに、地域との連携を軸として、社会・地域に愛される態度を培う。
--

2 中期的目標

1「夢・発見・実現」—自己の具体的なキャリアビジョンを設定し、実現に向け粘り強く継続する力をつけるキャリア教育を推進する— (1)「ドリカム授業」をコアカリキュラムと位置づけ、全ての授業との関連を持たせつつ、自分で考え自分の言葉で表現できる生徒を育成する。 ア 3年間を見据えたグループ学習等を通じて生徒の多様な出会いや体験を通じて自分の将来像を描く中で、ソフトスキルを養い、自尊感情や社会的有用感に富んだ人間性を育成し、生徒に自己実現させる。 イ 「課題研究」においては、自分が選んだテーマを研究し、自分の考えをまとめたり、プレゼンテーションしたりする経験を通じて、視野を広げ考える力・伝える力を育みながら、自らの個性・生き方を磨き、自己の進路を切り開く力を育成し、生徒に自己実現させる。 ウ 授業や機会ある大会・コンテスト・検定等に積極的にチャレンジし、生涯を通じて学ぶ力を身につけ、幅広い進路を確保し、生徒に自己実現させる。 (2) 立地する茨木市を中心として、「日本語指導の選抜も行っている総合学科」の特徴を活かし、グローバルだけれども「ちいさな総合学科」である特徴を生かした進路を含めて、進路決定率95%（R5：90%、R6：90%、R7：92%）をめざす。 ア 多様な社会で、違いや生活環境等にかかわらず、誰もが生き生きとした人生を享受できるよう、自らとは異なる状況の人々と接する機会や異なる環境に身を置く機会を意図的・計画的に設定し、すべての人の人権を尊重する心を養いつつ、キャリア形成する取組みを行う。 イ 進路ガイダンス、オープンキャンパス、企業訪問、地域活動、ボランティア活動への参加の機会を設定し、生徒が次の進学先・就職先や社会活動について体験を通して知る機会を作り、すべての生徒が進路希望やそれぞれの生き方を具体的に考え行動することを支援する。 ウ 教育産業や1人1台端末を積極的に活用し、生徒の学習意欲を向上させ、基礎学力を入学時よりも伸ばすことで多様な進路を保証する。
2「夢・発見・実現」—総合学科ならではの授業を通じ、社会情勢や課題の本質を理解し、変化の時代を生き抜く力を育成する— (1) 生徒の実態等に基づき、基礎学力を定着させるとともに、興味関心・進路希望に応じた教育内容を創造し、生徒の学ぶ力を向上させる。 ア 総合学科として、各系列のカリキュラムの充実と整理を図るとともに、授業内容を工夫して生徒の学ぶ力を向上させる。 イ 少人数展開授業の実施等により、文章読解の力など基礎学力の定着を支援し、生徒の学ぶ力を向上させる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを実現した授業づくりを進め、生徒の学ぶ力を向上させる。 ア 1人1台端末を積極的に活用した授業改善および実践を通じて、個々の状況やニーズに応じたより良い教育環境を構築する。また、D Xを進めるにあたっては、「アナログっぽいデジタル」を合言葉に、実物を使って考える活動と、頭の中でイメージを広げながら考える活動を行き来する学びを大切にし、情報やデジタル、理数系が苦手だと感じている生徒も含め、誰もが参加しやすいより良い学びの場を提供する。 イ 「主体的・対話的で深い学び」の推進のため、校内研修や授業見学等を行い、教員全員が相互に実践を共有して生徒の学ぶ力を向上させる。
3「夢・発見・実現」に打ち込める学校 —安全で安心な学びの場で、社会・地域・人との繋がりを大切に、互いに助け高め合える力を育成する— (1) すべての生徒が安心・安全を実感できる学校生活を送ることで、自己実現や社会性の獲得を促すための意図的・計画的な生徒支援・指導を行う。 ア 生徒が自発的・主体的に自らを発達・行動させることを意識し、その過程を学校（教職員）が支えていく発達支持的生徒支援・指導を重視する。 イ 生徒一人ひとりが安心・安全を実感し、落ち着いた日常生活を送ることができるよう、保護者や出身中学校、各生徒の地域や外部の専門人材・支援機関等と連携し、包括的で効果的な生徒支援・指導を行う。 ウ 自己の言動や生活態度をより好ましいものにできるようソフトスキルを養い、社会で活躍するための自己表現や社会性の獲得を促すとともに、生徒の自尊感情や集団の中での有用感を高め、興味関心のあることに生涯を通じて継続的に取り組む力を育成する。
4「夢・発見・実現」のための連携 —地域をはじめとしたさまざまな連携および多文化共生を推進し、生徒が生き活きと活動できる風土の醸成— (1) 生徒一人ひとりをサポートする人権教育・生徒支援の一層の充実を図り、生徒の不安を解消する。 ア 保護者や出身中学校、各生徒の地域や外部の専門人材・支援機関等と連携し、包括的で効果的な生徒支援を行う。 イ 学校行事や交流活動などを通して、生徒が生き活きと活動できる場を、3年間を見通した計画的な取組みとして提供する。部活動では、活動を通して自尊感情や集団の中で役に立っているという実感を育てるとともに、自分の興味・関心のあることに粘り強く取り組む力を身に付けさせる。 ウ 障がいのある生徒や外国につながる生徒も、誰一人取り残すことなく学べるよう配慮を進めるとともに、その取組みを学校全体で共有し、広げていく。 (2) 教職員が校経営計画のもと志を一つにし、ソフトスキルを率先して養い、互いに協力し合う中でチームとして機能する職場づくりを推進する。 ア すべての教職員が適切かつ丁寧な支援を行えるよう情報共有を密にし、カウンセリングマインドを持って、生徒の気持ちに寄り添いながら、生徒が安心して相談できる相談支援体制の充実を図る。 イ すべての教育活動を通して経験の少ない教員のOJTを図り、併せてミドルリーダーの育成を図る。 ウ 年齢構成等、教員集団の現状を踏まえたうえで、教職員一人ひとりの意識改革と学校全体のチーム作りを図り「働き方改革」に取り組む。 (3) 大阪府立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき、校務の効率化を図るとともに、年間の時間外在校等時間が720時間を超える教員ゼロをめざす。 (4) 絆づくりと活力あるコミュニティの形成により地域とのつながりを充実させる。 ア これまで培ってきた幼保小中大との連携、地域連携のネットワークを基盤に、地元に根づいた「開かれた学校」づくりを推進する。 イ 学校運営協議会および学校教育自己診断等を活用しつつ、保護者や地域のニーズを反映した学校改善に取組み、生徒と地域との協働を推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R7年度値〕	自己評価
「夢・発見・実現」 キャリア教育の推進	(1) コアカリキュラムのドリカム授業で夢を発見させる ア、体験型の学習機会の充実	(1) ア、多様な社会人との出会いの場や体験・実習を設け、グループ学習等でリアルに進路や生き方について考えさせ、ソフトスキルを養うとともに、自己有用感を向上させ「夢」を「発見」し「実現」へ向かわせる。	(1) ア、自己診断アンケートの「進路や生き方」についての肯定的回答:90%維持〔91%〕。	
	イ、主体的に参加し発表する学習機会を充実させ、発想や計画が実現することを実感させる	イ、 3年生の課題研究でのドリカムフェスタ：総合学科発表会が集大成となるよう自分でテーマを見つけ、自分の言葉でまとめ、他者の意見を聞いてより広く深く思考したうえで発表する経験を繰り返す中で、自己肯定感を向上させ、ポジティブに生きるための取組みを充実させる。	イ、総合学科アンケートの「総合学科で学んでよかった」の肯定的回答:90%以上維持〔94%〕。	
	ウ、各種挑戦の奨励で実現力を応援する	ウ、大会・コンテスト・資格等への挑戦を奨励し、前向きな目標を設定して努力する姿勢を育成する。	ウ、競技団体や認定団体等主催の大会・コンテスト・資格等に挑戦したものや校内での取組みが優秀であったものへの「福井高校賞」授与者数について150件以上を維持する〔172件〕。	
	(2)「ちいさな総合学科」での進路実現 ア、日々が多文化で他者理解が必要な環境を強みにした総合学科の学び	(2) ア、日本語指導の生徒や障がいがある生徒などとも共に学んでいる本校の環境を生かし、年齢・性別・文化・言語・志向など種々の違いを意識する学習機会をさらに設けて、他者理解を深め、誰もが生き生きと暮らせる社会をめざす学習を行う。	(2) ア、自己診断の「環境・多文化」・「豊かな心や人の生き方」の項目について肯定的回答各 85%維持〔85%・87%〕	
	イ、直近の進路も大切に学ぶ	イ、特徴ある本校での学びを、次のステージでも継続できるよう、自己実現できる進路を見つける参加・体験の機会を提供・推奨する。	イ、 自己診断の「進路や生き方」と「進路や奨学金」の項目について肯定的回答各90%維持[91%・91%]	

「夢・発見・実現」 変化の時代を生き抜く確かな力の養成	(1) 基礎学力の定着と興味関心・進路・生き方に応じた授業 ア、学習指導要領の中で、生徒に則した「ちいさな総合学科」の最適化 イ、少人数展開授業・文章読解・学び直しの内容の向上 (2) 主体的対話的な授業による学習意欲の向上 ア、授業改善の取組み イ、学習力向上のための研修の実施	(1) ア、「日本語指導」の生徒や障がいがある生徒と共に学ぶ環境の中で、将来も地元に残る生徒が多いことも踏まえた「ちいさな総合学科」の特徴を創る。生徒の興味関心やキャリア形成に有用な科目設定・授業展開精選し自己実現を支援する。 イ、全教科で読解力の育成と学び直しの要素を取り入れた授業を行い、ドリカム授業やHRではセルフコントロールの内容を盛り込みつつソフトスキルを養う。 (2) ア、観点別評価やＩＣＴを「便利な道具」として有効に活用し、「アナログっぽいデジタル」を合言葉に、ＤＸを活かした授業改善に取り組む。具体物に触れ、てや体を動かしながら考える活動と、頭の中でイメージを思い描いて考える活動を行き来させる学習過程を大切にする。具体的な操作から、半具体・半抽象を経て、抽象的な理解へと段階的に深めていく授業をめざす。 イ、教員相互の授業見学や研究授業を実施するとともに、授業力向上プロジェクトをミドルリーダーで推進し、生徒の学習力を向上させる。各教員の目標に「主体的・対話的」な授業の工夫を設定し、実践を検証する。	(1) ア・イ、総合学科アンケートの「総合学科で学んでよかった」の肯定的回答:90%以上維持 [94%]。 ア・イ、自己診断アンケートの「他の学校にはない特徴」の肯定的回答：90%以上維持 [86%]。 (2) ア、自己診断アンケートの「授業が分かりやすい」の肯定的回答：80% [78%]。 あわせて「1人1台端末の効果的活用」90%以上維持 [93%]。 イ、自己診断アンケートの「教え方の工夫」と「他の先生の授業見学」の肯定的回答：各 80%以上維持 [90%・85%]。	
	(1) 安心・安全を実感できる生徒支援・生徒指導 ア、自発的に基本的な習慣と社会性の確立に向かわせる支援・指導の充実 イ、いじめの防止や早期発見への取組み強化 ウ、保護者に学校がア・イの取組みを進めていることの周知と理解の促進。 エ、普段の学校生活の中でのコミュニケーション力の向上や、相手を思いやり、命や人権を大切にする姿勢につなげる取組みの充実	(1) ア、学習に限らず、基本的な生活習慣や社会性の獲得についても、達成可能なスモールステップを提示し支援して達成させ、その後は自発的に成長することを促す。 イ、学校での対面の場だけでなく、SNSなどのオンライン上でも、些細なことがいじめに発展する可能性があることを踏まえて生徒を見守る。特に、多対1の関係から始まるケースが多いことを意識し、小さな変化や兆しを見逃さないようにする。生徒からの訴えがあった場合や、好ましくない状況が感じられた場合には、速やかに教員間で情報を共有し、組織的に対応する。 ウ、保護者に向けての文書並びにメール等での情報発信強化。あわせて、懇談のほか行事等の機会をとらえての対面・対話を短時間でも確保する。 エ、教員は挨拶や呼名など、学校生活で多くある機会を大切にし、種々の声掛けを意識的に行う。また日々の授業や行事・部活動等での生徒相互の対話的取組みの場を増やし、支援・指導を繰り返し、互いを思い理解する力を養い、意思疎通の力をつけさせるとともに、いじめ防止などにもつなげていく。	(1) ア、自己診断アンケートの「基本的習慣の確立」・「指導は納得」の肯定的回答：各 80% [85%・81%]。 イ、自己診断アンケートの「いじめへの対応」の肯定的回答：100% [85%]。 ウ、保護者の自己診断アンケートの「生徒指導方針に共感」の回答 85% [86%] あわせて「方針や情報の提供努力」の肯定的回答 90%以上維持 [93%]。 エ、自己診断アンケート「命の大切さ・ルール・人権」の肯定的回答：90%以上維持 [88%]。	

「夢・発見・実現」 地域連携と多文化共生の推進	(1)生徒一人ひとりをサポートする教育活動の充実	(1) ア、職員研修等で教員各自ならびに生徒連携委員会・保健室等の生徒を支援する組織力を向上させる。 イ、保護者・中学校との連携を深めるとともに、校内でのSC・SSW・CC・居場所事業者と情報共有・協働支援を強化し、校外でも茨木市子育て担当課・福祉担当課・ユース事業者・茨木警察等との間で進んでいる連携などを、さらに他市や他の地域関係機関等にも広げる。ア・イあわせて校内外で生徒一人ひとりへのサポートを充実させる。 ウ、体育祭・文化祭・修学旅行等の行事を、生徒の実状にあわせて一体的に再構築する。 エ、部活動においては、部活動大阪モデルなども活用し、生徒の自尊感情や継続的に努力する力を養うものとして再構築する。 オ、障がいがある生徒や外国につながるのある生徒と他の生徒の関わりについて、日々の関係が教員を介さずとも増えるよう生徒を支援・指導する。	(1) ア・イ、自己診断アンケートの「学校に行くのが楽しい」の肯定的回答：80%以上維持 [78%]。あわせて「先生は相談に親身」・「気軽に相談できる先生」も各 80%以上維持 [86%・82%]。 ウ、自己診断アンケートの「行事は楽しく工夫」の肯定的回答：80%維持 [82%]。 エ、自己診断アンケートの「生徒会・部活動活発」の肯定的回答 70% [69%]。 オ、教室移動や昼食の場面等で、ともに過ごす様子の増減で判断。あわせて自己診断アンケートの「共に学ぶ環境」の肯定的回答 85%以上維持 [87%]。	
	(2)地域との絆づくりと活力あるコミュニティの形成 ア、地元 に根づいた「開かれた学校」づくりの一層の推進	(2) ア、福祉の授業や、部活のイベント参加などで積極的に地元と交流することを引き続き復活・継続させ、小中学校等での出前授業も充実させる。茨木市や同人権協会・福井地区等の事業・イベント等にも積極的に参加する。識字・日本語教室、自主防災会等への協力も継続する（地域へのボランティア活動で「地域実習」（1単位）の履修を認めるなどもする）。あわせて、学習支援員・介助員や事業の講師等で地元関係者の協力を求めつつ、本校への理解も深めていただく取組みを行う。	(2) ア～エ、自己診断アンケートの「地域の人々や校園などと交流」の肯定的回答 80%維持 [83%]。識字・日本語教室 30 回維持 [31 回]。保幼小中校園等への出前授業 10 件 [14 件]、交流事業参加 20 件 [34 件]。年間を通じて相互の関係が継続する大学・専門学校 3 校以上 [6 校]。	
	イ、地元の保幼小中学校園ならびに大学との連携強化	イ、「福井高校を育てる会」の地元中学校や「豊川ネット」との連携を強化し、出前授業や交流行事、また研究授業等に積極的に参加する。あわせて大学・専門学校等の研究やインターンシップなどに協力するとともに、本校の教育活動も支援していただく。		
	ウ、地元の協力を得て、進路未決定者にも支援者・支援機関の確保 エ、地元からのニーズが高い多文化共生についての協力強化	ウ、「キャリアパスポート」等の取組みについて、小中学校との連携を深めるとともに、必要な生徒については、本校からの進路先へも発展的に継承する。 エ、日本語指導が必要な生徒のための選抜実施校であることを生かし、茨木市や地元校園・地域等の要望を受けての多文化共生の取組みに協力する。		

働き方改革と教育力向上・労働同安全衛生管理体制の充実	(1)互いに協力しチームとして機能する教員集団	(1) ア、本校では教員の業務が細かく分化している傾向がある。多くが担っているあるいは経験したことがある担任業務を共通項として相互に助け合い学校の組織力を高める。 イ、データの保管・管理の責任や担当者を整理・明確化し、個人情報の適生管理と業務効率の改善に努める。	(1) ア、自己診断アンケートの「先生は互いに協力」の肯定的回答 85%以上維持 [92%]。 イ、自己診断アンケートの「先生は責任を持って業務にあたる」の肯定的回答 85%以上維持 [91%]。	
	(2)大阪府立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき、校務の効率化を図る	(2) ア、会議等の時間管理や類似する業務の一本化や相互の業務理解などを進めることで働き方改革を推進する。 イ「学校における働き方改革の取組み」を意識し、年間の時間外在校等時間については、720 時間超えの教員ゼロをめざし、ストレスチェック値の低下に努める。	(2) ア・イ、職場のストレスチェック値： 100 以下 [75]。 時間外在校等時間： 720 時間超 ゼロ [2]	